

MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2014 Vol.24

TAKE FREE

発行元：株式会社 松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL ▶ 048-798-1751 (代)
 TEL ▶ 0120-980-633 (フリーダイヤル)
 FAX ▶ 048-798-0075
 URL ▶ http://www.matsunaga.gr.jp

感動創造建設会社
 株式会社 松永建設



栄誉を明日への力に変えて

優良工事表彰 W 受賞!

▲左より大栗 和太社員、後藤 淳宏主任、松永 大祐社長、田中 吉朗課長、磨谷 整社員

松永建設は今年、優良工事に対して贈られる栄誉ある賞を2つ、受賞することができました。

適正な施工管理と優れた品質管理の結果、優秀な成績を収めた工事に対して授与される賞であり、

「感動と喜びを与える工事を」をモットーとする弊社にとって、その姿勢と努力が評価された大変誉れ高い受賞ともなりました。

松永建設は去る7月と10月に相次いで、優秀な工事に授与される栄えある賞を受賞しました。「顧客の皆様のために」を何よりの優先事項と考え、工事に最善を尽くし、また「喜ばれる工事、感動を与える工事」の観点から、創意工夫を凝らすことに日々心を砕く弊社にとって、その姿勢を評価いただいたことは大変喜ばしい限りです。今回は土木2現場の受賞となり、そのご報告と担当者の喜びの声をお届けいたします。

一つ目の受賞は、国土交通省関東地方整備局より授与された「平成25年度 江戸川河川事務所 優良工事等表彰」。優良工事並びに優秀工事技術者が称えられました。その栄誉に浴したのには、弊社土木事業部が施工した「H24築比地（つきひじ）中地区築堤工事」と、その現場主任である同部 土木2グループ 田中吉朗課長です。田中課長は2年連続の受賞であり、また過去にも数度にわたり表彰を受けている弊社土木事業の大黒柱的な社員です。

「今回の工事は江戸川の堤防をより強固にする目的で施工されました。土木工事は住民の方々の安全や快適

な暮らしに直結する、地味ですが非常に重要なものです。毎回身の引き締まる思いで仕事をしてはいますが、やはり受賞となるとそれが認められたようで、とても誇らしい気持ちになります」と田中課長は喜びを語りました。

二つ目は「平成26年度さいたま市優秀建設工事業者表彰」における受賞。「橋梁下部工事（市道22435号線加田屋橋）その2」の工事が表彰を受けました。さいたま市見沼区にある加田屋橋の架け替えに際し、橋台（橋の土台）の築造や護岸工事などを行ったもので、同部 土木2グループから後藤淳宏主任と大栗和太社員が担当しました。

「現場は軟弱地盤で、何よりそのことが工事の難度を上げていましたが、問題点を洗い出して適切な対処をしたり、地盤改良の工法を提案したりして乗り切りました。そうした対応が今回の受賞につながったと聞き、創意工夫の大切さを改めて胸に刻みました」（後藤主任）

「お客様に感動を差し上げたいという思いから、弊社は『提案力』を常日頃より大切に、邁進してきました。今回の2件はそれゆえの表彰であり、また一丸となって

頑張ってくれている社員全員の働きが下地にあるからこそこの思いを深めました。これから先もずっと表彰していただけるような、誇り高い仕事をしてほしいと社員諸君には願っています」そう語り、松永大祐社長は笑顔で4人を労いました。

引き続き2面でも、各工事の詳細と施工において努めた創意工夫等についてお伝えしましょう。



▲さいたま市浦和区のとときわ会館で行われた表彰式当日の様子

優良工事表彰 W 受賞!

国土交通省 関東地方整備局
「平成25年度 江戸川河川事務所 優良工事等表彰」

安全への使命感と「考える力」の勝利

ゲリラ豪雨や台風などの自然災害が毎年のように猛威を振るう昨今ですが、またその一方で、洪水への備えをより確かなものにするべく、堤防の増強工事や強度検証は各河川で人知れず行われています。今回受賞した築比地中地区の築堤工事もそんな工事の一つです。

今回施工が行われた築比地は、北葛飾郡松伏町の江戸川沿いの地域。既存堤防の断面を太らせる、つまり堤防をより大きく、堅固なものにする目的で工事は行われました。また、堤防幅を広げたことにより河川敷に設けられていた緊急用道路の再敷設も同時に行われました。これは災害など有事の際に緊急用車輛がいち早く活動できるように設けられている道路です。洪水対策としての堤防の存在共々、土木工事の意義とありがたみを改めて思い知ります。

工事は、表土剥ぎや構造物の撤去に始まり、堤防の盛り土、前述の緊急河川敷道路と堤防の上を走る天端道路の敷設、そして堤防を芝で覆う護岸工事まで半年以上をかけて行われ、約6万㎡というとても多い量の土砂が堤防拡張に注ぎ込まれました。しかし、表彰のポイントとなったのは、工事の難易度や技術力以上に「あること」

が関係したのではないかと田中課長は振り返ります。

「工事といっても、突き詰めれば人と人の関わり合いの中でのこと。大切なのは、いかに相手（発注者）の意図を汲み、要望に迅速に応じていくかではないでしょうか」それを有言実行するのみだったと語ります。たとえば、地盤の問題などで設計図面通りにいかないことがわかれば、手ぶらで「どうしましょうか?」ではなく、別の提案を携え「こう対処したい」。堤防を全面的に覆う大量の芝張り局面では、ご存知の通り、消費増税の影響などで昨年は全国的



▲土木事業部 土木2グループ 田中 吉朗課長(写真右)と同 磨谷 整社員。「表彰は自分一人の力で成し遂げたわけではありません。サポートに奮闘してくれた磨谷くん初め、部員の総力あってこそ」(田中課長)



▲堤防天端に走る自転車/歩行者用道路も広く使いやすくなった。日頃何気なく使っているインフラは、みな土木工事あつてのもの

に工事件数が大幅増、芝不足が危ぶまれるや、田中課長は事態を先読みして対処、工事未完の危機を見事回避しました。

たびたび表彰を受ける極意とは?と尋ねると、「特別なことはしていません」と田中課長は照れたような笑顔で答えられました。「相手の立場に立って物事を発想す

ること、どうすれば円滑に工事が回るかにひたすら心を砕くこと、この2点を大事にしているだけです」



▲工事完了後の現場全景、総長700mを一気に仕上げる工事だった。土手を右手方向に下ったところに白く通っているのが緊急河川敷道路、堤防の中を横切るように設置されているのが用水を通す樋管

優良工事表彰 W 受賞!

さいたま市「平成26年度 さいたま市優秀建設工事業者表彰」

想像力とコミュニケーションが生んだ創意工夫

さいたま市から表彰を受けたのは、老朽化した同市見沼区加田屋橋を架け直すに際し行われた、その土台部分の施工です。橋台と呼ばれる橋の基礎工事や、樋管という堤防を貫通して設置される暗渠水路の工事、コンクリートブロック積みの護岸工事などを行いました。

この工事には実は難問が待ち構えていました。というのも、先行して別の社が手がけていた右岸側の同種工事でトラブルが発生していたからです。堤防部分が予測以上に軟弱地盤で、積み上げた護岸ブロック

が寝たりヒビが入ったりしてしまったのです。同じことは弊社担当の左岸にも十分起こりうるという状況下、現場所長だった後藤主任がとった手立ては、新たな地盤改良工法の提案でした。

「提案したパイルネット工法は、まだ当県では未施工だったため、情報提供してくれた発注者にとっても弊社にとっても未知のもの。急遽研究し、強度計算と検討を行って提案したものの、『本当にうまくいくのか?』と内心は冷や冷やでした」と笑って打ち明けてくれた後藤主任。長さ10m強ほどもある一本ものの木の杭を



▲長い木の杭を土中に打ち込み頭部を連結するパイルネット工法で地盤改良。予測通りの強度を発揮、護岸ブロックも美しく積み上がった



る工法が用いられるところですが、費用が高く今回の工事には不向きでした。パイルネットのいいところは安

価で、しかも環境にもやさしい点。とはいえ、まっすぐに切り出した長い木の杭を170本も調達するのは非常に難儀でした」(後藤主任)

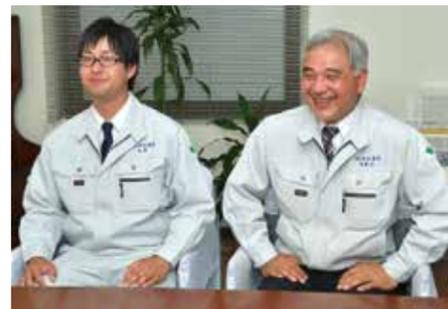
一連の段取りに忙殺される後藤主任の頼れる右腕となったのは、当時入社2年目だった大栗社員。「少しでも補佐になればと、見よう見まねで必死でこなすのみでした。むしろ後藤主任が、発注者との密なコミュニケーションから巧みに要望の核心をすくい上げ、提案や施工管理に反映させる様子を間近で見、大いに学びました」と大栗社員。なんでも当現場は、土木工事の根幹をなす工種のほぼすべてを網羅していたとのことで、大栗社員にとって経験値のぐんと上がった1年半となりました。また一人、たくましい社員が誕生したと言え

◀社会貢献として地元中学生の職業体験も当現場で受け入れた。未来の人材育成へとつながる大きな役割



▲橋架もかかり、全工程が終了した加田屋橋。施工前(写真右)と比べると強度差は歴然

そうです。表彰を受けた2件の工事のキーワードが、共にコミュニケーション力と提案力であったことは決して偶然ではありません。お客様に感動を差し上げたいという一心で突き進む「感動創造建設会社」の面目躍如たる結果といっても過言ではないでしょうか。



▲土木事業部 土木2グループ 後藤 淳宏主任(写真右)と同 大栗 和夫社員。「仕事=図面に忠実に施工をすることではありません。何事も相手との関係を築くところから」(後藤主任)「表彰現場で学んだことが、今の現場でも糧になっています。仕事とは連続と続くものなのですね」(大栗社員)

お客様の
ご紹介

今注目の「サービス付き高齢者向け住宅」が完成!

『エクラシア越谷大成』株式会社ウェルオフ様



▲高齢者に居住・生活空間を提供するだけでなく、介護機関や医療機関との連携で複合的なサービスを目指す「エクラシア越谷大成」。早くも満室が見込まれている

▲株式会社ウェルオフ 代表取締役
鈴木 徹様

超高齢化社会へと突き進む我が国において「介護の次なる一手」と期待されている「サービス付き高齢者向け住宅（＝サ高住）」のこのたび越谷の地に、株式会社ウェルオフ様の最新のサ高住である『エクラシア越谷大成』が完成しました。弊社がこれまでに医療・福祉施設の建設で培ったノウハウを注ぎ込んでご提案する、RC造高齢者向け住宅「ABライフ」の第1号物件です。

「RC（鉄筋コンクリート）造でありながら坪単価57万円からという建築費の安さと、それにもかかわらず品質で妥協しない高コストパフォーマンスが、松永建設にお願いする決め手になりました」と語るのは、ウェルオフの鈴木徹社長。その切実な思いは介護業界のある現状と直結していました。

「特養——特別養護老人ホームはここ何年も極端な需要過多が続き、一施設に何百人もが入所待ちの状況が続いています。ですが、実はそれは費用の安い従来型特養（相部屋中心）に限った話で、ユニット型と呼ばれる新型特養ではむしろ空室が目立っているというのが現状なのです。従来型と比べてしまうと、やはり新型の費用の高さがネックということでしょう」

老後の蓄えに比較的余裕のある層には、居住空間や設備を充実させた有料老人ホームがある。ならば、目指すべきは「特養に入りたい」のに入れないでいる層で



▲食事処やふれあいの場として使われる広々とした共有スペース。鈴木社長は「入居者の方々が「近所さん付き合い」をする、和気あいあいとした空間になるのが望み」と語る。将来的には1階のデイサービスとは別個のアクティビティをここで実施することも考えているとか

はないか？ それを解消するにはできるだけ安く、安心して入所できる介護施設の提供が急務では？ そうしたが思いが鈴木社長を突き動かしました。そして初期投資をギリギリまで抑え、無駄なコストが利用代金に転嫁されることのない理想的な施設——エクラシア越谷大成を造り上げたといっても過言ではありません。

完成したエクラシア越谷大成は、2～3階に居室と食堂などの共有スペース、1階に傘下の認知症の方を対象としたデイケアと提携クリニックを擁しています。ちなみにサ高住は、端的に言うと「バリアフリー構造が義務化された高齢者専用の

賃貸住宅」のこと。あくまで賃貸住宅であり、いわゆる介護サービスは入居される方の介護度等に応じて、必要なだけ受けければいい仕組みになっています。しかしエクラシアでは、得てして高齢者は部屋に閉じこもりきりになり身体機能が衰えがちであるという問題点を重視し、1階にデイサービスを併設、「極力利用していただけるよう促し、『元気で長生き』をサポートします」（鈴木社長）。クリニックを併設しているのも、有料老人ホームや特養などでは受け入れが難しい胃ろうや中心静脈栄養などの医療行為を必要とする方であっても、できるだけ入所希望に

応じたいという姿勢からだそうです。

家族が遊びに来るのも自由なら外出するのも自由。安全が担保されながらも、個々のライフスタイルが守られた伸びやかな暮らしを送ることができるのがサ高住の魅力。エクラシア越谷大成のような施設は、遠からず日本の社会において欠くことのできないものへと育っていくのではないのでしょうか。



▲「建設費は安くとも、『必要最低限』どころか『必要十分』のクオリティであることに驚きました。松永建設の『安価でも品質に妥協なし』というポリシーそのままですね」と鈴木社長。各居室はご覧の通り、豪華絢爛ではないが住むには十分なものに仕上がっている



▲営業本部法人営業部 石田 真一係長
「部材を効率的に使う設計など、徹底的にコスト上の無駄を省いた仕様により坪単価57万円～（建築本体価格）を実現させた弊社の高齢者向け住宅がABライフです。一般的なRC造の相場（坪あたり100～120万円）を考えると驚異的な価格と胸を張れます」

サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)とは?

高齢者が安心して借りる・住まうことを目的とした専用の住宅で、そのための基準が法律で制定されています。有料老人ホームが一般に「利用権」を買う方式であるのに対し、サ高住は賃貸契約が主。賃借人の権利も保証されています。いわゆる介護サービスは連携等により受けやすい状態になっているものの、「付属」しているわけではありません。サ高住の「サービス付き」とは、安否確認や生活相談等の見守りサービスを指します。食事や入浴の有無は施設により異なります。



お客様の
ご紹介

最先端のデータプリント事業の発信地
東京ラインプリンタ印刷株式会社様
DPSソリューションセンター



▲「天井高が工場ながら高く、開放感があって気持ちがいいと従業員が喜んでます」という真崎センター長の言葉通り、抜けのよい空間に

◀印刷の主力である羽生工場のすぐ近くに建設されたDPSソリューションセンター。羽生工場との連絡の良さもメリット

東京都板橋区に本社を置くビジネスフォーム印刷の先駆、東京ラインプリンタ印刷株式会社様が、このたびその基幹事業であるDPSの設備を集約すべく、羽生に新工場「DPSソリューションセンター」を新築しました。DPSとは「データプリントサービス」の略。用語としては耳馴染みが薄いかもしれませんが、このDPSを使った印刷物はじつに私たちの日常にあふれています。ダイレクトメール（DM）や、公共料金等の料金通知・振込納付書などがあたります。宛名や住所といった顧客情報のデータベースを預かり、用途に応じて印刷物を製作・印字、そして封入や発送までを行う事業です。

個人情報扱う重大性から、このたびの新築にあたって何にも増して重視したのは建物のセキュリティ性能でした。「データ管理の厳正なルールはもちろん定めていますが、それはソフト面での対策。建物の仕様というハード面からもセキュリティ性を高めるために、外部からの進入の厳重なチェック、そして内部からの情報持ち出しに対してもチェック機能が働くシステムにしてあります」と、真崎伸也

センター長は自信をのぞかせます。ただし、詳細のお披露目はNG!そうでないとセキュリティの意味がなくなりますから、残念ですが当然ですよね。

それにしても、昨今のDM類の進化ぶりには驚くばかりです。のりづけ部分が開けられて、本来の用紙表裏の何倍もの情報を得ることができるのは、もはや当たり前となりました。のりづけを開くと数ページもの冊子状になっているもの、個人情報部分に目隠しのシールを貼った上で返信できる仕様になったものなど、本当にさまざまな種類にお目にかかることができます。また、宛名面だけでなく文書面にまで自分の名前が刻印されていたり、自分の属性や日頃の嗜好から推測されるオススメ商品やキャンペーン情報が掲載されていたりと、あたかも自分宛にカスタマイズ印刷された「世界でたった一通のDM」かと見まごうものも近年登場しているのは、皆様もご存知の通りです。

「おかげさまで中央省庁様から一般企業様まで、広く手がけさせていただいています。高品質のものを確実なスケジュール管理で納品する——こうした大切な

基本を長年積み上げてきたからこそこの信頼の結果と自負しています」（真崎センター長）

「このDPSソリューションセンターは、最先端のDPS事業の発信地として当社のシンボル工場となるべきもの。心のこもったいい仕事をありがとうございました」（豆田副センター長）



▲東京ラインプリンタ印刷株式会社 DPSソリューションセンター 真崎 伸也センター長様(左)と豆田 隆 副センター長様



▲大型かつデリケートな印刷機械が並ぶことになる大空間構造の1階。紙とその圧着商品を扱うアンビエな仕事環境上、当センターには湿度コントロールのできるミストが導入された

様々な仕様で作成可能な封書サイズのDMツール。
定形サイズ(最大120mm×235mm)までであれば、
全て郵便料金80円の範囲内です。



◀従来のDMといえば「一斉同報型」だったが、今では「One to One」でカスタマイズする方式がごく当たり前。顧客の要望に合わせ多種多様なDMツールを開発・製作する



▲建築事業部 建築2グループ 江森 英夫所長
「次の依頼が来るかどうか、真にいい仕事をしたかの評価の分け目が、次につなげていくことこそが使命です」



▲建築事業部 建築2グループ 山口 仁社員
「まだ2年目という自分の未熟さを常に頭に留めて、ただただ一生懸命頑張りました。反省と学びのくり返しでしたが、成長させていただき感謝しています」

お客様の
ご紹介

「出雲大社の遷宮記念事業」で約60年ぶりの大改修 武州岩槻総鎮守 久伊豆神社様



木々の生い茂る緑豊かな1万坪の広い境内。鳥居から拝殿へまっすぐに伸びる500mもの参道。岩槻にある久伊豆神社は、閑静な住宅街の中であってさえ悠久の静けさを感じさせてくれる空間です。それもそのはず、なんと創建は約1400年前、飛鳥時代にまでさかのぼる由緒ある神社なのです。

「出雲系の氏族『土師氏』が移住してきた際に、大国主命を出雲からお招きし、お祀りしたのが当社の始まりと言われています。土師氏は土器作りを得意としており、出土、あるいは昔から伝わる道具

などからそう推測されています。川の豊かな流れを背後に従えた豊かな岩槻台地は、いい『気』の流れるまたとない場所だと居着いたのでしょう」とは馬場裕彦宮司。

今回の久伊豆神社の境内整備事業は「出雲大社の遷宮記念事業」と銘打って行われました。同じ神様を頂く出雲大社の本殿遷宮が、ご存知の通り昨年大々的に執り行われたことにあやかっています。本殿の改修、拝殿と御神札所の増築、参集殿の新築、受付所の移動、拝殿前の整備などいろいろ手がかけられ、昭和



▲久伊豆神社
馬場裕彦宮司様

▲イス席対応とし、従来の約3倍の広さとなった拝殿には80～100人ほども収容できる。当社での品格あふれる神前結婚式は人気の的で、常に予約がいっぱい

30年頃に行われた屋根の葺替え以来となる、約60年ぶりの整備事業となりました。

10月18日の夜には、改修にあたり仮殿にお移りいただいていた神様を本殿にお迎えする「本殿遷座祭」が、そして翌19日には、例大祭が「平成の大造営奉祝記念例大祭」として例年以上に大々的に営まれました。大勢の宮大工の手により築かれた総ヒノキ造りの拝殿が、とりわけ壮麗で目を引いていました。これら造営事業の奉祝行事は、ほかにもさまざまに趣向で11月23日までほぼ毎週末行われています。広く新しく生まれ変わったご参詣かたがた、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。悠久の時に囲まれた神宿る空間の美しさが、きっと心の憩いとなるでしょう。



▲耐震改修を行った本殿。コンクリートを敷き詰める、いわゆるベタ基礎工法が耐震性能上は望ましいが、大地からの気——すなわち神様の力を損なってしまうため、あえて布基礎を採用



▲当社では手水は地下からの湧き水。「森は大切な神域、神社とは森や自然を守るという大きな役割を担っています」という馬場宮司様の言葉が重く響く



▲皇室から贈られた孔雀の末孫も飼育されている拝殿前。この広い拝殿前で造営事業の奉祝行事が催される。11月16日(日)には和楽器の演奏会、11月23日(日)には美しい日本の歌と朗読の会が開催された

久伊豆神社様へのお問い合わせは▶▶▶ TEL: 048-756-0503 (久伊豆神社 社務所) まで

【住所】〒339-0065 埼玉県さいたま市岩槻区宮町2-6-55
【URL】<http://www.hisaizu.jp>

お客様の
ご紹介

北浦和に絶品イタリアンレストラン誕生! リスタランテ『グッチーノ』 / K2H 川口様



北浦和駅徒歩3分という絶好の立地にオープンしたリスタランテ『グッチーノ』。弊社を通じ、RC造10階建のABオービット(高収益賃貸マンション)『K2H』を新築された川口様が、自慢の腕をふるうべく当物件1階にて始めたイタリアンレストランです。

中に入ると、オープンキッチンと向き合う形でカウンター席がずらり。ライブ感あふれる厨房の近さに驚きます。この造りは、川口様がシェフとして長年道を究めてきた結果にたどり着いた、ある想いと関係しています。それは、「お客様一人ひとりの顔を見ながら、その人に合

った真に良質な料理を提供したい」という熱い想い。実直さや誠実さを大切に、あえてこぢんまりとした造りを選択したといっています。

「自分のこだわりで、食材は料亭や割烹で使うくらいのクオリティのものを選んでいきます。そうした食材の美味しさを最高レベルにまで引き出すのが、僕の料理人としての仕事。とすると、『最上級の仕事=お客様の顔を見ながら』だと思えてきて、おのずとこういふ形態になりました」

本当に美味しいものを出せたときの客の顔は「まったく違います」と、力強くうなずく川口シェフ。美味しさに目を丸め、



▲落ち着いたシックな店内には、胃をくすぐるいい匂いが漂う(写真左)。川口シェフと、マンション『K2H』の共同オーナーであるお母様(写真上)。お母様も毎日『グッチーノ』の店頭に立ち、シェフを支える

きらきらと輝くお客様の笑顔を見るのが大好きなのだそう。

そんな川口シェフの得意料理はパスタ。魚料理や肉料理はどんな西洋コース料理にもありますが、ほかに類を見ないイタリアンならではのものがパスタ。そこに「イタリア独特の文化や誇りが見えるから」と川口シェフはパスタを究めました。グッチーノでは手打ちの自家製生パスタが楽しめます。

北浦和に何とも素敵なイタリアンが誕生しました。ぜひご賞味を!



▲アグー豚や自家製生パスタ、24カ月熟成の生ハムなど、妥協のない食材選びが自慢。18時～21時はコース料理を提供し、21時以降はワインとアラカルト(単品料理)が楽しめるワインパーティタイムに



リスタランテ グッチーノへのお問い合わせは▶▶▶ TEL: 048-834-0727 (お問い合わせ専用番号) TEL: 050-5570-5808 (予約専用番号)

【席数】20席(個室あり)【営業時間】18:00～24:00(L.O.23:00)不定休
【住所】〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-16-7 K2Hビル1階【URL】<http://www.localplace.jp/t100053202/> ※食ベログにも掲載中!

岩槻名所めぐり

第1回「時の鐘」 岩槻区本町6-229-1 (岩槻駅から徒歩約10分)

岩槻の歴史的な名所を巡り、街の魅力に改めて触れるコラムがスタート!第1回は「時の鐘」です。

時の鐘という川越のものが有名ですが、岩槻の時の鐘もほぼ同年代に建てられた由緒あるものです。寛文11年(1671年)に当時の岩槻城主、阿部正春の命によって作られ、一日3回、その鐘の音が城内や城下の人々に時を告げていました。『新編武蔵風土記稿』ほかの文献によれば、なんと江戸後期には一日に12回つかれた時代もあるそうです。時の鐘のつき方は、まず3回続けて「捨て鐘」をつき、そのあと少し間をおいてから時刻の数をつくというも

の。つまり捨て鐘とは、鐘の数を聞きもらすことのないよう、「これから時刻をお知らせしますよ」と広く合図をする役割を果たしていたと考えられています。

時の鐘自体は、江戸時代当時には各所に作られるほど身近な存在だったようで、全国で5万個ほどもあったのではないかとされています。しかし、中でも岩槻の鐘は「九里も離れた江戸にまでその音が聞こえた」と記された文献もあり、近在に広く知られる時の鐘であったようです。

そして享保5年(1720年)、鐘にヒビが入っているのが見つかり、時の城主、永井直信が改鑄させたものが現在



までそのまま使われているというのは、大層すごいことではないでしょうか。鐘は口径78cm、高さ151cm、厚さ7.5cm、重さは750kgあります。木造の鐘楼は嘉永6年(1853年)に改築されたもので、大火によって消失し明治27年(1894年)に再建されたという川越の時の鐘より古いものということになります。鐘楼は方13.1m、高さ2.1mの塚の上に建っています。

当時は岩槻城の大手門を出て100m

ほど行ったところ、武家屋敷街と町家街の境付近にあったという時の鐘。現在は住宅地の一角に、隣の大銀杏と共にひっそりとたたずみながら、朝昼夕と一日に三度、美しい音色を響かせています。鐘つき時刻は6時、正午、18時。お昼時の来訪者にもその響きを楽しんでほしいと昨年、140年ぶりに正午の鐘つきが復活しました。時空を超えて深く、豊かに鳴る鐘の音をぜひ楽しんでみてはいかがでしょうか。

さいたま市商工見本市、開催

「コラボさいたま 2014」に今年も出展



去る11月7日~9日の3日間、さいたまスーパーアリーナにて開催された「コラボさいたま 2014」。さいたま市やさいたま商工会議所などが主催し、3万2千人の来場者を集めたこの県下最大の商工業者の見本市に、今年も松永建設は出展しました。

弊社は今年、「体験・実感」をテーマ

に3つの催事を実施。土木体験ではトランシットという測量器を実際にのぞいてもらい、目標間の角度や距離を測る仕事をイメージしてもらいました。ヘルメットや安全帯を装備した本格的な「お仕事スタイル」で、会場に組んだ足場に乗って記念撮影を行ったのは建設業体験

です。自転車を漕ぎ、太陽光パネル1枚分の発電量を実感する恒例のエアロバイク発電コーナーもあわせて、3つの催事はどれも行列ができる大人気ぶり。お子さんたちの笑顔と歓声が場を包み込みました。ご来場くださった皆様、ありがとうございました。

松永建設がBS12チャンネルに登場

苦闘と挑戦を描くドキュメンタリーに!

11月9日にBS12(トゥエルビ)にて放映された『DreamStage』という番組をご覧になった方はおいででしょうか?

上記番組で弊社が特集され、『~まだ俺達はやれる!松永レボリューション』と題した30分のドキュメンタリーがオンエアされました。



おかげさまで昨年、弊社は創業50年を迎え、更なる成長に向けて歩み続けていますが、その反面で蔓延する業界全体の人手不足や、時代と共に変わりゆく建設業の形に即した柔軟な変化に取り組みなければならない状況にも直面しています。そうした苦闘やプレッシャーにどう対峙し、乗り越えていこうとしているのか?

カメラは次世代を担う40代前後の中堅社員たちに密着、仕事への熱い取り組みや企業改革への意気込み、挑戦などを描き出しています。夢を追い求め、新たなステージに立とうとする奮闘の軌跡です。

社長の 男気 コラム

「目的に向かって一致団結」で走り抜けた夏

組織力、それは社の宝

チーム全員が一致団結して何かを成し遂げる、一つの方向を向く——ありていに言えば「組織力」ですが——とはなんと大事なパワーでしょうか。そんなことを実感するここ数ヶ月でした。最初のきっかけは自動車レース。7月に開催された「もてぎEnjoy耐久レース」と、8月の筑波での「SEVチャリティ5時間耐久レース」の2大会に参加、それぞれ7時間と5時間にわたる耐久レースでした。以前にも私がカーレースにハマっている話題はお伝えしましたが、今回参加したのは1ドライバー・1車でタイムを競うスタイルとは別の、チームで臨むもの。ドライバーは消耗を考慮し交代で、またペース配分や給油タイミングも無駄が出ないように計算した上で走行しなければなりません。フルパワー・フルスピードだけの勝負ではなく、長時間を戦

略的にコンスタントに走り抜き、最後にゴールすることこそが大切なレースといえ、何となく違いはおわかりいただけるでしょうか。

当日我がチームは社員も参加し大奮闘。ドライバーとして頑張ってくれた社員もいれば、飯作りに奔走してくれた社員、給油所まで何度も汗みどろになりながら車を手押ししてくれた社員などなど。レースの常道に漏れず、大雨で中断があったりギアが不調になったりとさまざまなアクシデントに見舞われましたが、無事に乗り切れたのはまさしく組織力のおかげでした。適切かつ効率的な役割分担と、それを過不足なく遂行する実行力とマネジメント力。しかも周囲の状況を見渡しながらかつそれらを統合できれば、より良い結果が導き出せる——組織力が十二分に発揮されたときの醍醐味です。

8月17日に開催された恒例の『岩槻まつり』の出し物もそうでした。ここ数年、音楽祭風の催しにしていたため同じ社員でも「見る側」「見られる側」という線引きがくっきりしていました。今年は趣向を改め、「全員参加」「皆が主役」がテーマ。「各部対抗のB級グルメ選手権」に。アイデア出しから票数獲得の工夫、仕込みに配食まで部各員が総力を結集した結果、組織力+女子力の合わせ技で総務部&グループ会社の混成チームによる、創意あふれる「鳥皮バーガー」が見事優勝をさらいました。

私たちは皆、松永建設グループという同じ船に乗る者同士。もちろん豪華客船ではありませんから、みんなでオールを漕がなければ1cmだって前には進みません。どのポジションで、どのく



◀7時間の奮闘といひ汗が思い出となった「もてぎEnjoy耐久レース」でのひとコマ

らいの力で漕げば目指すところへ到達できるか?どうしたら息が合うか?

そんなことを一人ひとりが考え実行すれば、きっと大きな推進力が生まれるはず。全社員での「知恵と工夫のオール漕ぎ」、期待して下さい。



◀目的に向かって全員がまとまるときは、いい笑顔が弾ける。(岩槻まつりより)